

# 巻頭言

## カーボンニュートラルを「夢」で終らせない

国吉 浩 (一財) エネルギー総合工学研究所  
副理事長



6月20日に、エネルギー総合工学研究所（エネ総研）の副理事長（兼 専務理事）に就任しました。よろしくお願い致します。

1年ほど前まで、ウィーンに本部を置く国連工業開発機関（UNIDO）の事務次長を務めていました。昨年7月に帰国しましたが、日本に住むのは5年3ヵ月ぶりになります。帰って来て驚いたことの1つが、日本でSDGsやカーボンニュートラル（CN）という言葉をよく目にする事です。不適切な言い方かもしれませんが、正直こんなに流行っているとは思いませんでした。日本社会の真面目さを象徴しているように思います。

UNIDOは、国連機関の1つなので、当然SDGsを推進しています。責任機関（Custodian Agency）となっているSDG9『産業と技術革新の基盤をつくろう』はもちろんのこと、17あるすべての目標について活動を展開しています。エネ総研は、2050年のCN達成に貢献すべく、関連技術の調査、研究、普及などの活動を行っています。私はSDGsの世界からCNの世界に転職したようなものです。

さて、このSDGs、CNは、それぞれ2030年まで、2050年までに達成すべき目標から、今やるべきことを決めていくアプローチです。例えていえば、映画やテレビドラマの『チア☆ダン』に出てくる「夢ノート」のようなものです。「夢ノート」とは、最終目標としてある大きな夢（『チア☆ダン』の場合は、全米高校生チアダンス大会での優勝）をまずノートに書き、そのために半年後に達成すること、1ヵ月後に達成すること、1週間後に達成すること、そして今日やるべきこと、と最終目標達成のための行動を書いていくことによって、今やるべき具体的な活動を明確化する方法です。

こうした方法（バックキャストिंग）には、色々な利点があります。まず、解決すべき課題とスケジュールが明確になり、目標達成まで計画的に活動することができる事です。

もう1つの大きな利点は、飛躍的なブレイクスルーを促す点です。これはビジネスの意思決定において、「アウトサイド・イン」と呼ばれる手法に通じます。通常、自社の有する

資源や特徴を分析し、その強みを生かした戦略的ビジネス展開を考えます（インサイド・アウト）。「アウトサイド・イン」とは、敢えてSDGsなどの外部から示された目標を達成するためにどうするか、と考えることで、従来の枠にとられないブレイクスルーが生まれることが期待できます。CNのための技術開発に大量の投資が行われているのも、イノベーションを通じたブレイクスルーを期待し、これが国家規模や世界規模で行われているといえます。

しかし、こうしたアプローチには問題もあります。目標達成を至上命題とするが故に、その実現性についての検証（リアリティ・チェック）が軽視されがちなことです。でも仮に実現しなければ、それこそ「夢」で終わってしまいます。『チア☆ダン』であれば、そうして頑張ったこと自体が若いときの貴重な経験として財産になるでしょうが、SDGsやCNの場合は取り返しのつかない膨大で無駄な投資となりかねません。そこに注意が必要です。

エネ総研では、現在、『中長期ビジョン～2050年に向けたエネルギー技術展望～』（2019年）の改定作業を行っています。当時の前提（2050年に二酸化炭素排出量を2015年比で80%削減）に対し、その後の目標変更（2050年にCN達成）を踏まえた、全面改定です。これは2050年CN達成を前提として、モデルによるシミュレーションを行って需給構成を示す、バックキャストिंगです。そしてCN達成のために必要な技術課題を展望しています。

これだけではその実現性の吟味が十分でないと考え、今回の改定に当たってはトランジション検討委員会を設け、それぞれの分野の専門家から、CNに至るまでのトランジションの絵姿を提示してもらうこととしています。

年内とりまとめを目指して作業を進めていますが、11月1日にはシンポジウムを開催し、「改定ビジョン」の検討状況を報告するとともに、トランジション検討委員会のメンバーによる議論を行う予定です。会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式で開催予定ですので、是非ご参加ください。

※ シンポジウムの案内 URL : <https://www.iae.or.jp/2023/09/29/36thsympo/>